

2019年6月3日
愛知製鋼株式会社

愛知製鋼グループ社員が水源の森育成ボランティアを実施

愛知製鋼株式会社(本社:愛知県東海市、代表取締役社長:藤岡高広)は、6月2日(日)長野県王滝村で水源の森を育成するボランティア活動を実施し、総勢36名が参加しました。

本年4月1日、当社は長野県王滝村と“森林(もり)の里親制度”を締結し、今後、約12haの森林を「愛知製鋼グループの森」として、整備していきます。今回は締結後初めてのボランティア活動で、「愛知製鋼グループの森」の看板(アダプトサイン)の除幕式を行いました。

長野県王滝村などを水源とする愛知用水が、知多半島の農業・産業・人々の暮らしのために必要不可欠な存在であることから、当社グループでは、愛知用水の水源を守る活動の一環として2006年から毎年継続してボランティア活動を実施しています。今回も当社グループ28名に加え、大学生の実行委員で構成される「企業の森 命をつなぐ PROJECT」メンバーから4名、そして王滝村の職員4名が参加しました。途中、地元の住民の方々による猪汁や山菜の天ぷらなどがふるまわれ、朴葉もちづくりやネイチャークラフトづくりを通しての交流も行われました。

当社は、知多半島生態系ネットワーク協議会事業の一環である「命をつなぐPROJECT」に参画し、社有地の中新田地区に「カブトムシのすむ森づくり」を進めており、今回の活動で発生した間伐材を、ネイチャークラフトの材料にしたり、緑地整備の柵や机、椅子などに活用することを予定しています。

今後も当社は、グループ一体となって積極的に社会貢献活動を推進することで、いつまでもこの地にあり続けてほしいと思っただけの企業を目指していきます。



協力して除伐作業を行う様子



除幕式の様子



多くのグループ社員が参加しました